

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部海洋情報課
沿岸域海洋情報管理室

主任沿岸情報官 しまぎき 島崎 たくみ 拓美

03 - 3541 - 3853 (内線325)



平成21年4月30日
海上保安庁

全国の海岸線を網羅した「環境脆弱性指標図(ESIマップ)」

2,147図が完成しました。

海洋において大規模な油流出事故が発生した場合に、的確な油防除活動ができるよう、日本全国の海岸線の性状(性質、状態)を図に表現した ESI マップが完成し、提供しています。

海上保安庁では、平成14年から全国11の管区海上保安本部において、海岸線の環境脆弱性指標の現地調査を開始し、その調査結果に基づき ESI マップの整備を進めてきました。

これまでも整備が終了した管区本部から順次 ESI マップを提供してきたところですが、この度、全管区における整備が終了し、北海道から沖縄までの離島を含む合計2,147図が完成しました。

ESI マップは、油漂着前の海上における防除活動や漂着後の海岸の油防除作業に活用されるほか、海洋環境の保全等に利用することができます。

なお、ESI マップは次のインターネットアドレスから閲覧でき、PDF版が印刷できます。

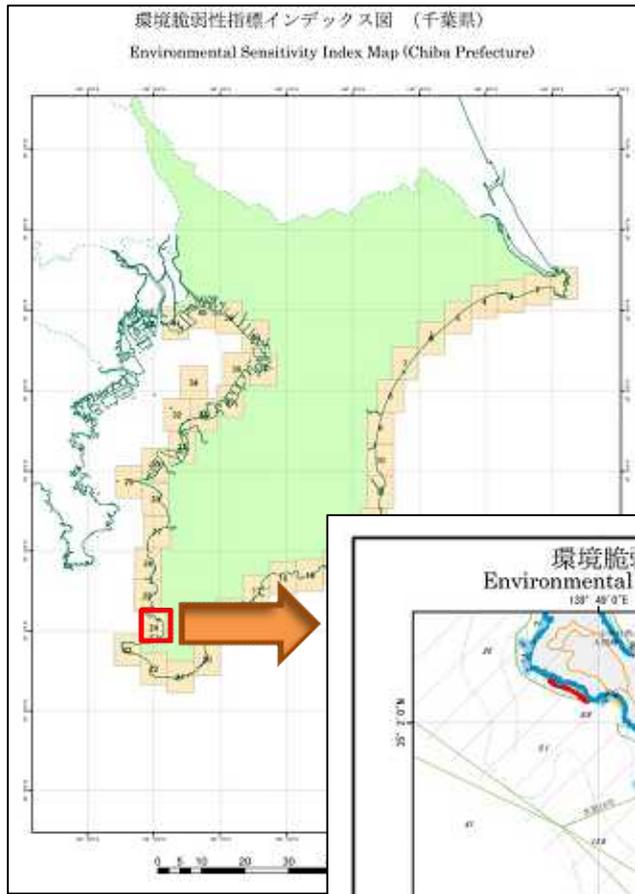
<http://www2.kaiho.mlit.go.jp/>

又は、

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/JODC/CEIS/pdf-top-page.htm>

環境脆弱性指標 (ESI : Environmental Sensitivity Index)

油が漂着した場合の自然浄化能力や除去作業の困難性といった観点から、海岸線の開放性や遮蔽性(閉鎖性)、岩場、砂丘、干潟、植生などに応じ、大きく10種類に分け、さらに砂や湿地などの種類による細分類を含め18種類の指標値で示しています。(資料1参照)



ESIマップ 表示例

